

千葉県松戸市矢切地域における都市農業の実態と課題

青山学院高等部 1年 北澤 一真

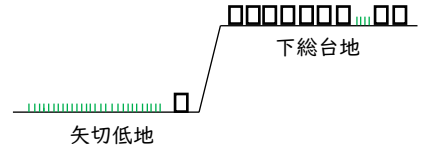
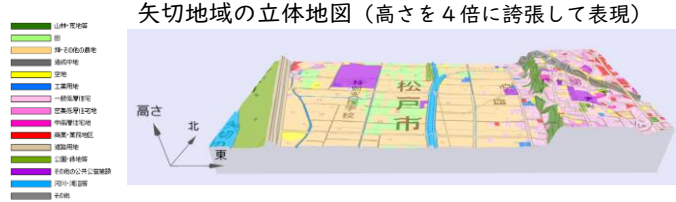


はじめに

千葉県松戸市矢切地域は江戸川を挟んで東京都と隣接しており、東京駅から15km圏内であるため大規模な宅地化が行われてもおかしくない環境である。しかし、下総台地に接する沖積平野である矢切低地では、大部分が市街化調整区域に指定されているため大規模な田畑が残されている。本研究では、矢切低地で年3回行った現地調査や農家を対象とした聞き取り調査から、この地域で営まれている都市農業について考察し、実態と課題について述べる。

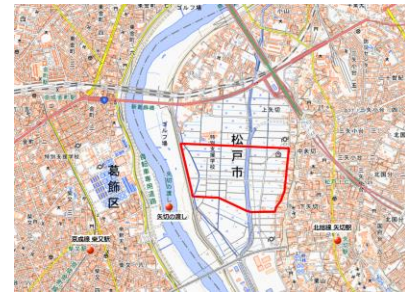


矢切地域の特産品として、**矢切ねぎ**が挙げられる。矢切ねぎは「全国農作物品評会」において、農林水産大臣賞を3度受賞した。また、平成19年には松戸市農業協同組合が**地域団体商標**を取得している。元旦には、矢切神社で「飾り福葱奉納」が行われる。矢切地域の観光資源としては、江戸時代から続く「**矢切の渡し**」が挙げられる。矢切の渡しは、東京都葛飾区柴又地域と千葉県松戸市矢切地域を結ぶ渡船で、かつては**農民渡船**として関所を**通らずに往来**することが出来た。



現地調査

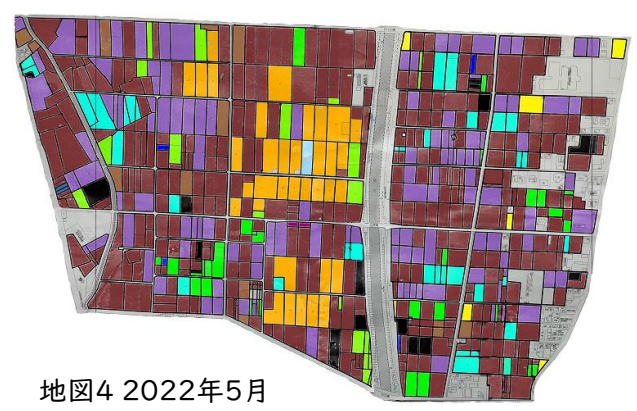
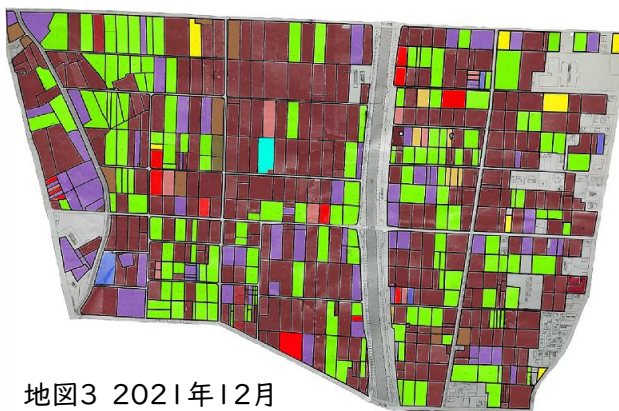
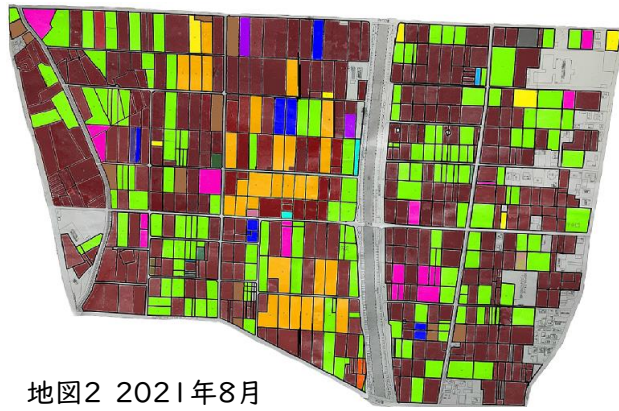
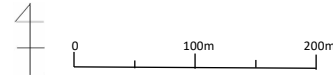
矢切地域の農業の実態を把握するために、2021年8月4日、同年12月27日、2022年5月4日・5日に徒歩による現地調査を実施した。調査範囲は、地図1において赤線で囲まれた江戸川沿いの矢切低地である。作物が栽培されていない土地は、休耕地、耕作放棄地の二つに分類した。耕作放棄地は、無耕作でかつ、概ね30cm以上の雑草が生えていることを条件として分類した。結果は次の地図2・3・4のようになった。



地図1 調査範囲

今回の調査では、矢切低地の大部分で調査が行える赤線で囲まれている区域を選定した。なお、調査地域中心部に流れている川は坂川である。

2500分の1ゼンリンマップを12.8%に縮小



地図2 2021年8月

地図3 2021年12月

地図4 2022年5月

凡例

休耕地	キャベツ	サトイモ	菜の花	サツマイモ	ダイコン
耕作放棄地	コウリヤン	枝豆	ガム種	トウガン	レタス
自家栽培	イネ	カボチャ	オクラ	ブロッコリー	コマツナ
ねぎ	苗	ズッキーニ	シソ	ハクサイ	ジャガイモ

現地調査の考察



地図2~4の調査結果を見ると、**坂川に近い地域では、イネの栽培が行われている**ということが分かる。1979年の宅地利用動向調査によると、調査区域の大半でイネが栽培されており、

40年ほどの間に稲作から畑作中心に変化したことが分かる。これは、鉄道工事が発生した残土を矢切地域に無償で提供したからだと報告されている[1]。

また、地図2・3を見ると、ねぎの栽培は地域の至るところで盛んに行われている。同様に地図4ではキャベツの栽培が盛んに行われている。よって、**地域全体で栽培が行われている畑作の品種は、ねぎとキャベツである**ということが分かった。

しかし、[1]には、ねぎの裏作は、現在ではキャベツよりも単価の高い、ブロッコリーの栽培を行うことが主流になってきている、との記述があったが、今回の調査ではキャベツの方がブロッコリーに比べ栽培面積が多かった。

農家への聞き取り調査

2021年12月27日と2022年5月4日・5日での調査では、実際に矢切低地で栽培されている農家の方に聞き取り調査を実施した。

農家番号1 (調査日 2021年12月27日)	〈作物形態〉	畑
農家番号2 (調査日 2021年12月27日)	〈作物形態〉	畑
農家番号3 (調査日 2022年5月4日)	〈作物形態〉	田
農家番号4 (調査日 2022年5月4日)	〈作物形態〉	畑
農家番号5 (調査日 2022年5月5日)	〈作物形態〉	家庭菜園

農家の方の居住地について

- ・(農家番号1) 矢切住まい。基本的に昔からやっている人が多いため、基本的には台地の上に住んでいることが多い。江戸川沿いにかつて家が並んでいたが、いまではほとんどなくなってしまった。
- ・(農家番号2) 矢切住まい。現在では斜面林の下の地域に住んでいる人も増えている。
- ・(農家番号3) 矢切住まい。
- ・(農家番号5) 矢切地域に住んでいる。恐らく都内から通ってきている農家の人はいないのではないかと。基本的には、自転車や車が交通手段。自転車は矢切低地に住んでいる人たちが多く利用する。

出荷方法について

- ・(農家番号1) 現在の時期は農協で矢切ねぎふるさと便での出荷が繁忙期を迎えている。自家栽培している人もいるが、他の農家の方は基本的にスーパーの地場産品コーナーに出荷をしたり、ネット通販を行ったり、農家の方自身で商いをしている。ネット通販の場合は、直接の売買になるのでより顧客の要望に応えることができる。
- ・(農家番号2) 市場に出荷。最近ではふるさと便・面積を減らしている。
- ・(農家番号3) 農協を利用している。
- ・(農家番号4) インターネットでの通信販売をしている人も多いが、直売所での販売も多い。
- ・(農家番号5) 最近では出荷方法がいろいろあるので、市場に出荷する人も少なくなっている。

専業農家・兼業農家の有無について

- ・(農家番号2) 専業農家は、高齢農家になればなるほど多くなる。また、特に兼業農家では後継者がいない人もいる。
- ・(農家番号5) 専業農家の中でも最近ではほとんど作付けを行っていない農家の方がある。また、後継者がいない人もかなりいる。専業農家の方だと、先祖代々から農業を営んでいたり、かつて先祖が地主だった人もいたため、何か所もの場所で農業を営んでいる場合も多い。

水は、近くを流れる川の水を使っているのか。

- ・(農家番号3) 地域に流れる小川に流れる水を使って、田んぼに水を引いている。小川の水は、田んぼで育まれる生態系にはなくてはならない存在である。また、栽培を何人かて協力して行っている人もいる。

農作物の収穫量について

- ・(農家番号4) この地域は、ねぎとキャベツの生産が盛んなので、それらを作っている人たちが圧倒的に多い。特にねぎは様々な人たちが栽培している。1年間通してねぎを栽培している人もいる。

【考察】

聞き取り調査から、農家の方のほとんどは矢切に住んでいた。また、出荷方法は農協やスーパーの地場産品コーナーに出荷したりと多岐に渡るということが明らかとなった。専業農家や兼業農家の中には後継者がいないという人も数多く存在していることも明らかとなった。今回農家の方を対象とした聞き取り調査を行った際、ご高齢の方がかなり多かった。また、専業農家の後継者がいない方も存在したことから、矢切地域の農業は岐路を迎えていると言える。

日本全国の農業は人口減少や少子高齢化などにより、岐路を迎えていることは言うまでもないが、今回の調査で東京から15kmで大規模な農地が残っている矢切地域でも同様の傾向が明らかとなった。私は、より持続的な農業を実現する手法の一つとして、全国的に有名な矢切の渡しの近くに農作物直売所を設置するということがよいのではないかと考えている。そのために、今後矢切地域全体の直売所の位置や収穫された農作物の動きをより明確化する必要があると考える。